

## 皆つながっている——多義語の意味のネットワーク

日本語でも英語でも、たいていの語は**多義語**(polysemous word)であり、複数の**語義**(sense)を持っています。英語の場合、基本動詞や前置詞などを辞書で調べると一つの語が実に多様な意味で用いられることがわかります。多義語の語義を見ていくとある語義と別の語義の間に全然関係がないように見えることがありますが、一つの語を成している以上、それらの語義には何らかの動機づけがあり、全体で語義のネットワークが形成されています。ここでは不変化詞 out の意味の拡がり为例にとって、語義間のつながりについて考えてみることにします。

out は副詞または前置詞として用いられ、その中核的な意味は右のような**イメージスキーマ**(image schema)で表されます。これはある人やモノ (trajector, TR) が容器／空間 (landmark, LM) の外に位置づけられていることを意味しています。次の例を参照：

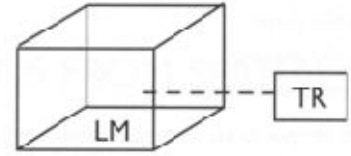


Figure 3.1 Image schema for out

(1) The cat is out of the house. (Lee 2001: 31)

(2) The cat went out of the house. (Lee 2001: 31, 32)

(2)の場合、LM は「家」という閉空間であり、最初その空間の中にいた猫が空間の外に出ていったことを表していますが、同じ out を用いた次の場合はどうでしょうか：

(3) The sun is out. / The star is out. (Lee 2001: 32)

(3)は「太陽が出た[出ている]／その星が出た[出ている]」ということですが、この場合 LM は(2)の場合のような観察者によって特定可能な閉空間ではなく、観察者には接近不可能な空間であり、TR(=「太陽／その星」)がその(観察者には直接見えない)空間の中から観察者にとって知覚可能な空間領域に出てきた[出現した]ことを表しています。さらに、次の場合を考えてみましょう：

(4) The fire went out. / The light went out. (Lee 2001: 33)

(4)は「火が消えた／明かりが消えた」ということで、(3)とは逆に観察者に今まで見えていたものが見えなくなったことを表します。この場合 LM は観察者にとって知覚可能な空間領域を指し、TR は初めはその領域内にあったが、その領域から出て観察者の知覚の範囲外の領域に入ってしまったという捉え方をしているわけです。(3)の場合は観察者の視点は LM の外に置かれていますが、(4)の場合は LM の中に置かれていることになります。

上の(3)(4)の例では観察者による TR の(視覚による)知覚可能性が問題とされますが、次の場合はこれらとはやや異なります：

(5) The news is out. / The secret is out. / I found out the truth. (Lee 2001: 33)

(6) He tried to blot out the memory. (Lee 2001: 33)

(5)は「そのニュースは発表された／その秘密は明らかになった／私は真相を知った」、(6)は「彼はその記憶を消そうとした」ということであり、これらの場合 TR(=「そのニュース／その秘密／真相」)の(観察者による)視覚的な知覚可能性ではなく、(話者・行為主体による)認識可能性が問題になっています。(5)は(3)に対応し、TR が話者・行為主体にとって認識不可能な領域(=LM)から認識可能な領域に出現したことを表します。(6)は(4)に対応し、TR を行為主体にとって認識可能な領域(=LM)から認識不可能な領域に追い出そうとしたこと——認識可能な領域から消去しようとしたこと——を表しています。

今までの out を用いた例は皆、LM との関係における TR の位置の変化に関わるものでしたが、out の例の中にはそれとは毛色の違うものがあります。次の例を参照：

(7) The lava spread out. (Lee 2001: 32)

(8) roll out the carpet / hand out the brochures (Lee 2001: 32)

(7)は「溶岩が(流れ出して)広がった」ということで、元は小さい形であった溶岩(=TR)が大きな形になってより広い場所を占めるようになったということで、TR の「位置の変化」ではなく「大きさ・形状の変化」を表しています。(8)も同様で、それぞれ「(たたんであった)カーペット(=TR)を広げて敷く」「(まとめてあった)パンフレット(=TR)を(皆に)配る[配って分散させる]」という意味を表し、TR の「存在の形の変化」を表しています。これらの場合、同一のモノ(=TR)が「外の方」に広がって行って、より大きく、より広がりのあるモノになることを表しており、TR と LM が言わば一体となっているような形であると言えます (この場合、TR は再帰トラジェクター(reflexive trajector)と言われることがある)。

不変化詞 out の種々の例を見てきましたが、これらはすべて上に示した基本的なイメージスキーマおよびそれからの拡張として捉えられるものです。多義語の語義は多様で一見雑多に見えますが、それらは決してバラバラに存在しているのではなく、中心となる意味とさまざまな形で結びつけられ、全体として一つのネットワークを形作っています。